



タマシ先生は、2018年4月に本学経済学部¹に准教授として着任されました。小さい時から日本に興味をもたれ、日本の神話や祭を研究されており、日本が大好きな先生です。

1997年 ブカレスト大学 外国語学部 日本語学科 (副専攻・英語)
2001年 奈良教育大学 留学
2004年 大阪外国語大学 日本語日本文化教育センター 研究生
2009年 大阪大学 大学院言語社会研究科博士後期課程修了

タマシ カルメン先生 (Tamas Carmen)

子どものころ (ルーマニア)

私は、ルーマニアのオドベシュティ (Odobesti) というワインで有名な小さな町で生まれました。一人っ子で、家族はほぼ全員医者だったこともあり、医者になると思っていました。小さいころから本が好きで、いつもお菓子を食べながら本を読んでいた。

小学校4年生の時に、ルーマニアは、革命によって共産主義から民主主義となる歴史的変革がありました。しかし、子どもだったためあまり実感がありませんでしたが、テレビ番組が多彩になり、それまで何も売るものがなかったお店に、品物が並ぶようになったのは、驚きでした。

日本に興味を持ったのは、子どものころ、着物の日本女性がお茶をたてている写真が表紙になっている写真集を見たことがきっかけでした。その本は、革命前に父がワイン20Lで近所の人から譲り受けた、当時としては大変貴重なものでした。



影響を受けた日本の写真集



テレビ出演



ブカレスト大学

大学生 (ルーマニアと日本)

当時の、ルーマニアでは日本はあこがれの国だったので、唯一日本語学科があるブカレスト大学は競争率がとても高かったです。私が受験した年も10人の定員に120人が受験しました。現在は、多くの大学に日本語学科があります。両親は私が日本語を勉強したいといった時も、交換留学生として日本に行くときもこと賛成してくれたので、思う存分日本語や日本文化を勉強することができました。

当時、ブカレスト大学で中国語を学んでいる同級生と交際しており、卒業と同時に結婚し、その後それぞれ日本、中国の大学院に進学しました。そのような私たちの結婚生活をみた親たちは、「せめて国を一つに決めて」と言い、結局二人で日本に住むことになりました。幸運なことに、現在では夫も日本が大好きになっています。

研究内容

私は文化人類学者で、研究テーマは、「Masculinity (男らしさ)」です。その中でも日本の祭「天神祭」を研究しています。もともと私は古事記、神話を勉強しました。その神話の世界が現代でも生きているのが日本の祭です。

調査をするにあたって、私は外国人であることを強みに思うことがあります。伝統的な祭の世界は完全な男性社会で、ふつうは女性が立ち入ることが難しいです。しかし、私のような外国人は、その伝統的な社会の枠の外に在ると思われ、天神祭を取り巻く様々なコミュニティに参加させてもらっています。そのコミュニティの中には、地域の小学校のPTA活動などもあり、まだまだ様々な形で残っている日本の男性社会を実感しながら、調査・研究をしています。



学会発表

文化人類学の研究は社会のいろいろな現象の原因とか動き方を研究し、未来に生かしていくことだと考えています。私たちは、自分の育ってきた文化をそれぞれに内在していますが、それはあまりにも自然に溶け込みすぎていて、逆に意味を理解することが困難です。私は研究によって内在した文化を明らかにしていき、様々な人たちが自分たちの文化や他の文化を理解することに役立てたいと思っています。

私と日本

日本という国が本当に大好きです。日本に来てから嫌な思いをしたことは、ほとんどありません。私の大学院時代の先生は男性ですが、本当にすばらしい先生でした。もちろん周りでは、女性だから大学で雇ってもらいにくいとか、ハラメントの話を知りたいことはありますが、私自身はそのような経験はなく、差別や区別があったとは全く感じていません。



天神祭

でも、日本の研究者は女性が少ないと実感できるような面白い体験をしたことがあります。一昨年に開催されたイギリスの日本研究学会で、発表グループのメンバーがすべて一つのジェンダーの場合は発表できないと、私のグループは女性3人だったので、引っかかってしまいました。これは差別？と思い、問い合わせると、日本からの発表グループは男性ばかりのチームが多いので、女性を入れてほしいという事情だったそうです。

兵庫県立大学

私は、今は日本語、日本文化を教えています。今後、文化人類学を教える機会もあると思っています。その学生に対して、私自身が子供のころに母親からいつも言ってもらえた言葉を伝えたいです。

「あなたには何でもできる、頑張ればどんなことでもできる」

「ルーマニア革命」とは

1989年12月に起こった、チャウシェスク独裁を終結させた革命。

第2次世界大戦中に枢軸側にたったルーマニアは1947年に人民共和国、1965年に社会主義共和国となり、1974年には大統領として権力を集中させた。しかし、国民は貧しさに耐える生活を強いられた。

このような中、1989年の東欧での一連の変革の嵐をうけ、チャウシェスク夫妻は逮捕され、24年間にもおよぶ独裁は崩壊した。1990年イリエスクが大統領に就任し、新政権は国名をルーマニアとし、複数政党制、信教の自由、少数民族差別禁止などの態度を明確にした。